

〔シカの生息域拡大過程ならびに捕獲シカの肥育条件の解明〕
ノウサギによって穴が空いたシカ柵への噛み切り防止金網の設置

新井一司・奈良雅代・荒川純彦・中村健一
(緑化森林科)

【要 約】 ノウサギによって穴が空けられた化学繊維性のシカ侵入防止柵に対して、ノウサギに噛み切られない対策を考案した。地際部に金網を追加設置したところ、6ヵ月経過したが、ノウサギによる穴は確認されず、シカなどの被害もみられない。

【目 的】

2012年3月、奥多摩町に設置したシカ侵入防止柵内の再造林木が壊滅的な被害を受けたとの相談があった。このシカ柵は、化学繊維製のネットでできているが、その地際部には野生動物によって噛み切られたと思われる多数の穴が確認された。シカ柵内を踏査したところ、多数のニホンノウサギ（以下、ノウサギ）の糞に加え、ニホンジカ（以下、シカ）、ニホンカモシカ（以下、カモシカ）の糞が確認されたことから、初めノウサギによってネットが噛み切れ、その後、シカやカモシカが侵入、定住して、造林木への被害を拡大させたものと推定された。そこで、ノウサギに噛み切られない対策を考案した。

【方 法】

ノウサギに噛み切られないように表1に示した線径1.4mm、網目40mmの垂鉛メッキの亀甲金網を用いた。地際部の噛み切りが多かったので、この侵入を防ぐために、金網を図1のように地面と接する部分で10cm程度折り曲げて、上辺を既存のシカ柵に結束バンドで止め、吊り下げる構造を考案した。既設のシカ柵の立地条件は、傾斜角40度を越え、かつ岩場が多く存在していたため、金網の下辺は、図2のように足で押さえて金網が地際の地形に十分接した場合は、杭で止めず、浮いた場合のみアンカー杭で押さえることとした。金網の設置は、2012年6月に行い、その後、毎月1回、設置した金網に損傷がないか確認を行った。野生動物の動態については、2012年4月からセンサーカメラ(HC500, Reconyx)を設置し、継続して撮影した。

【成果の概要】

1. 設置箇所は、図3に示したように傾斜角40度前後の急斜面がほとんどだったが、設置作業は特に問題なく、総延長800m設置できた。
2. 金網設置後、2012年12月までの6ヵ月間、金網に野生動物によると推測される噛み切り被害はまったくみられなかった。
3. 金網設置前の2012年4月から6月までの間は、シカ柵内でノウサギ、シカ、カモシカなどがセンサーカメラに写っていた。設置後は、シカ柵の周囲には、多数のシカやカモシカ、ノウサギ、イノシシなどの野生動物が撮影されたが、柵内に侵入していなかった。
4. まとめ：化学繊維性のシカ柵に対して、ノウサギに噛み切られない金網を追加設置した。設置後、ノウサギによる穴は確認されず、シカなどの被害もみられなかった。

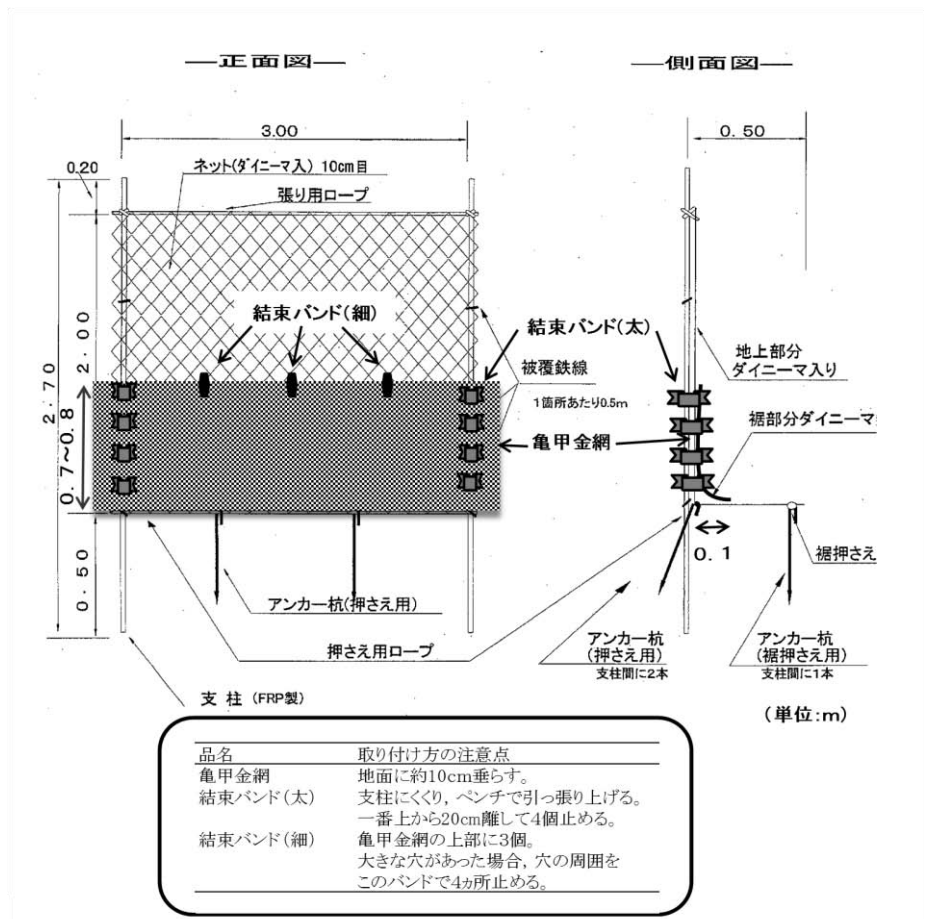


図1 ノウサギの噛み切り防止金網口

表1 ノウサギの噛み切り防止金網の仕様

亀甲金網	線径 1.4 mm 網目 40 mm 幅 910mm×長さ30m 亜鉛メッキ 重量 22kg/本
結束バンド(太)	幅 7.6mm, 全長 300mm 屋外用66ナイロン
結束バンド(細)	幅 4.8mm, 全長 301mm 屋外用66ナイロン
アンカー杭	長さ 440mm, φ9, 羽付き スチール製



図2 地際部の折り曲げ状況
足で地際部を踏み込んで、設置していく。

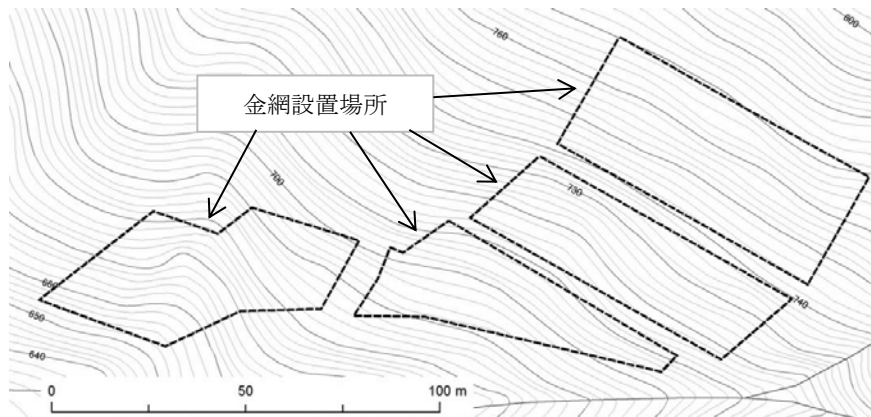


図3 金網設置場所
4つのシカ柵に金網、総延長800mを設置した。